



34

新規入荷！ 「伽羅」

資料登録番号
CH-2012-8

この度、伽羅を新資料として入手することができました。一般的な漢字ではありませんので、読み方も「？」となる方もいらっしゃるかもしれません。お「伽」話で使われる漢字だから、「とぎら」と呼ぶ？ いえいえ、「きゃら」と呼びます。

これは香木的一种で、香りが非常に良いものです。もちろん、この良いというのは、かなり主観が入るのですが…。

京都などのお香のお店に入ると、必ずといっていいほど、この伽羅、そして沈香(じんこう)の香りがします。伽羅と沈香は物としてはほぼ同じもので、沈香の中で、特に「香りの良いもの」が伽羅になります。植物としては、ジンチョウゲ科ジンコウ属に分類されます。今回入手した伽羅は、上の写真のとおりですが、木の幹をむしり取った一部のようなのです。この伽羅そして沈香は、木の幹が物理的に傷ついたときに樹脂を出し、それがそれが固まったもので、水に沈むものが多いです。そのため沈水香木、沈水とも言われます。日本書紀二十二巻には、推古天皇3年(西暦595年)に淡路島に沈香が流れ着いたという記載があり、島民たちは、それをただの流木と思い、薪として火にくべたが、とても良い香りがしたので朝廷に届けたとのこと。このとき流れ着いたのが約1mもある沈香だそうで、とても大きい物です。伽羅、そして沈香というのは、日本書紀にもあるように、加熱することで、香りが漂うのですが、今回科学館で入手した伽羅は、持っているだけでもとても良い香りがします。香りのベースになる成分は、ジンコウオール、アガロフランといったものです。

しかしまだ、この伽羅や沈香の香り成分については、完全に調べられているようではなく、どのような香り成分が含まれているのか、興味が尽きないところです。ちょっと焚いて香り確かめてみようか、とも思うのですが、香り音痴の私には、もったいないかもしれません。機会があれば、成分分析にかけてみたいと思います。そのときは、結果を皆さんにご報告します。



最高級の香り! 「伽羅」 16.8g
高さ11cm 最大幅5cm

小野 昌弘(科学館学芸員)